

報道機関各位

営農型太陽光発電のモデル的取組へ

～ソーラーパネル下でのセンリョウのプランター栽培に関する検討会～

お正月に欠かせない縁起物「**センリョウ**」は、本県鹿行南部地域が誇る特産品です。センリョウは日陰を好む植物であるため、通常は竹すを組んだ「**楽屋（がくや）**」と呼ばれる遮光施設の中で栽培していますが、竹す資材の価格高騰や疫病等の土壌病害により収量が減少していることが問題となっています。

これらの問題を解決するため、地域のセンリョウ生産者、行政、発電事業者で構成する千両生産性向上協議会は、農林水産省の「**みどりの食料戦略システム推進交付金（地域循環型エネルギーシステム構築）**」を活用し、**ソーラーパネル下でセンリョウをプランターで栽培する営農型太陽光発電**に取り組んでいます。

本取組は、生産者にとっては、楽屋に代わる遮光施設となるとともに、プランターでの栽培を行うことにより、疫病等の土壌病害対策につながることを期待されます。

鹿島地帯特産指導所では、ソーラーパネル下におけるセンリョウの栽培方法に関する試験に取り組んできましたが、このたび、本試験の中間検討会を開催しますので、是非、この取組を県民にも広く紹介していただきたく、ご案内いたします。

【日 時】令和7年1月15日(水) 13:30～15:00 (受付開始13:15)

【集合場所】株式会社 水郷電設 (千葉県香取市大根617-5)

※一度集合後、試験ほ場までは車で5分ほど移動します

13:30より遅れる場合は(株)水郷電設(0478-59-3271)

までお電話ください

【参集範囲】県内センリョウ生産者、市役所、JA
県関係機関等 20名程度

【内 容】 1 ソーラーパネル下でのセンリョウ栽培
2 プランター栽培における栽植密度と設置方法
3 意見交換



現在試験しているソーラーパネルほ場外観



プランターを用いた栽培試験の様子

※当日は、**すべてほ場での開催**となりますので、汚れてもよい履物と雨具持参でお越しください。

※小雨決行ですが、**荒天の場合は中止する可能性もありますので、事前にお問い合わせください。**

【問い合わせ先】

茨城県農業総合センター鹿島地帯特産指導所 (千両生産性向上協議会構成員)

担当：高木・小川 TEL:0299-92-3637 FAX:0299-93-1340

e-mail: katoku@pref.ibaraki.lg.jp

竹すで組んだ遮光施設「楽屋（がくや）」について

センリョウは日陰を好む作物のため、「竹す」で日よけして栽培しています。竹すとは、竹を幅2～3cm程度に割ったものを、針金を使ってすだれ状に編んだ資材です。

センリョウは、この竹す資材で周囲を覆った遮光施設の中で栽培していますが、近年、竹すの価格高騰が続いているため、栽培に適した新たな資材を望む声が高まっています。

また、産地では、「千両役者が控える場所」との意味も込めて、この遮光施設のことを「楽屋（がくや）」とも呼んでいます。



楽屋の外観
(屋根は平らで全体的に四角形)



楽屋の内側
※写真は12月の様子です。

センリョウ疫病について

センリョウ疫病は、病原菌がセンリョウの根や茎、葉に感染することで、植物体を枯らしてしまう病気です。病原菌は土壌中に生存しており、水を介して感染が拡大します。そのため、竹と竹の間に多少の隙間がある竹す施設では、土壌に病原菌が生存していた場合、雨粒が落ちて病原菌を含んだ水がセンリョウに跳ね返ることで、一気に病気が蔓延してしまいます。

そのため、ソーラーパネルで雨を入りにくくし、プランター栽培によって清浄な土壌で栽培することで病気の蔓延を防ぐことができます。



センリョウ疫病
による立枯れ症状

プランターを用いた養液土耕栽培について

センリョウは通常、直接地面に植えて栽培しますが、鹿島地帯特産指導所ではプランターを活用した養液土耕栽培技術を開発しました。この技術を用いることにより、センリョウを健全な培土で栽培することができ、さらに株元に設置した点滴灌水チューブにより養液（液肥）を施用するため、吸収効率が上がり無駄のない施肥ができるとともに、従来より密植栽培が可能となることや収穫本数の増加が期待されます。



プランターを用いた
養液土耕栽培の様子
※写真は12月の様子です。

営農型太陽光発電と国の支援事業について

営農型太陽光発電とは、農地の一時転用許可を受け、農地に簡易な構造かつ容易に撤去できる支柱を立てて、ソーラーパネルを設置し、営農を継続しながら発電する事業を指します。

国では、みどりの食料システム戦略の実現に向けて、地域の再生可能エネルギー資源を活用した地域循環型エネルギーシステム構築を支援しています（みどりの食料戦略システム推進交付金）。収益性を確保できる作目や効果的な設備の設計や設置場所の検討のほか、それらの検討の結果、最適化された営農型太陽光発電設備の導入実証が支援対象であり、現在、千両生産性向上協議会において取り組んでいるところです。